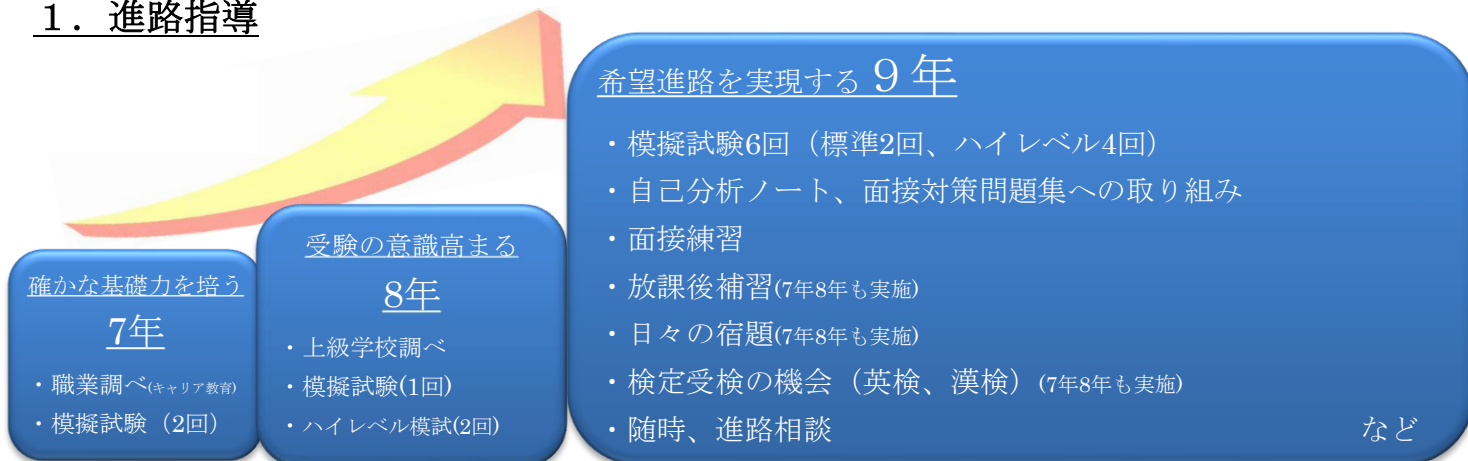


中学部紹介資料

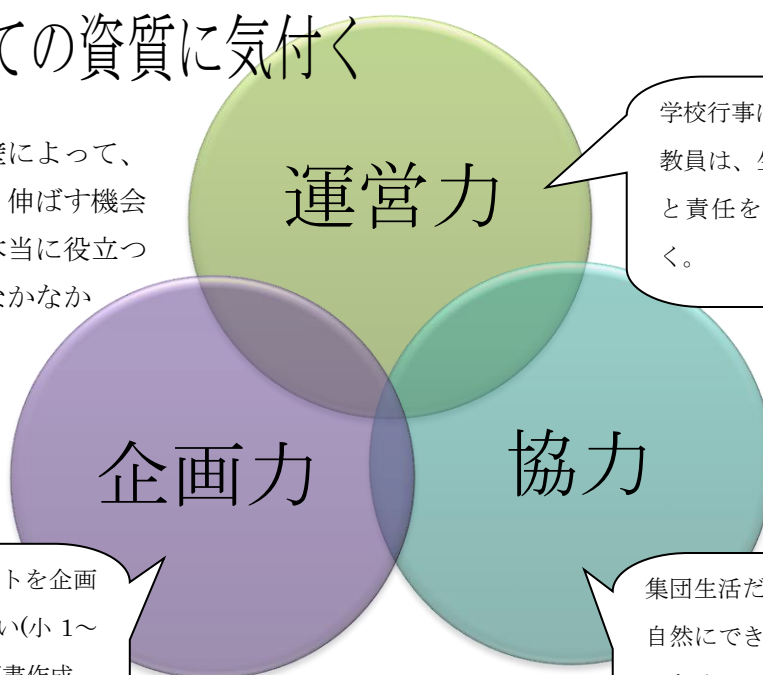
1. 進路指導



2. 行事・生活そのもので育む人間性とリーダーシップ

リーダーとしての資質に気付く

集団のサイズや言葉の壁によって、本当は育てたいけれど、伸ばす機会の少ない力。実社会で本当に役立つ力は、経験しなければなかなか身に付きにくい。



3. 日本の高校受験を意識した授業内容

各教科日本の教科書・問題集・副教材を用い、高校受験の準備が可能。
文学、日本語語彙、漢字テスト、英文法、日本の地理・歴史など、現地校+塾ではカバーしきれない内容も容易に学習や演習が可能。



NACで進路実現！～4つのモデル～

1. 日本→NAC→日本の高校

〈ケース1〉早稲田実業高校合格

- ・6年生2学期～9年生卒業
- ・評定 45/45
- ・英検 2級 (9年次)
- ・常に定期考査ではどの教科も手を抜かずに取り組んだ。継続した国語の演習と数学に対するこだわりが合格への大きな要因に。合格水準には9年11月に届き、出願し合格。

〈ケース2〉慶應女子高等学校合格

- ・7年3学期～9年卒業
- ・評定 44/45
- ・英検 2級
- ・当初より日本の教育に主眼を置き、日本語の学習・習得を徹底的に追求した。もちろん英語についても努力を重ねた。NACの定期考査、日本語の学習を徹底的に追求し、学校活動にも一生懸命であった。

〈ケース3〉県立高校合格

- ・7年4月～9年卒業
- ・評定 43/45
- ・英検 2級
- ・帰国予定の県において、志望する高校に帰国入試枠がなく、一般生として5教科の受験に挑んだ。高校受験のための塾などには通わず、学校の勉強だけに取り組んだ。放課後は、現地のクラブチームに所属し、英語力も伸ばした。

2. 日本→現地校→NAC→日本高校

〈ケース4〉慶應義塾高等学校合格

- ・9年生6月～9年卒業
- ・評定 43/45
- ・英検準1級 (入学前)
- ・9年の6月からの編入。編入時から既に英検準1級を保有しており、英語成績は文法事項を補い安定させた。特に国語力と漢字の強化に力を注いだ。志望校を明確にしたことも合格を後押し。

〈ケース5〉慶應義塾湘南藤沢合格

- ・7年10月～8年12月
- ・評定 40/45
- ・英検準1級
- ・英語の能力が高い一方、日本語・漢字に大きな遅れ。在学中は特にそれらの取り戻しに注力した。定期的に行う漢字テストや定期テストを通じて補った。帰国後もその努力を継続し、合格に至った。

〈ケース6〉愛知中高一貫私立中編入

- ・7年4月～8年7月
- ・評定 42/45
- ・英検 2級
- ・帰国時期を見据えて、現地校の体験と受験の準備を同時に行った。NAC編入後、日本の勉強に絞ることで、ハイレベルな学習をする時間を効率的に生み出したことが大きな要因。面接練習も随時行った。

〈ケース9〉国際基督教大学高校合格

- ・8年4月～9年卒業
- ・評定 43/45
- ・英検準1級
- ・日本語の遅れを1年間で補い、勉強、行事、習い事の全てについて精力的に取り組んだ。良好な友人関係が気持ちの安定を後押し。早期から3教科に絞った受験演習も合格の要因となった。

3. 日本→NAC→現地校

〈ケース7〉慶應ニューヨーク学院

- ・5年7月～9年卒業
- ・評定 37/45
- ・英検 2級
- ・NACのELDでの積極的な授業参加とそれについていくための努力が英語力を確立。家庭学習も大きなカギ。

4. 米国→NAC→日本高校

〈ケース8〉慶應義塾湘南藤沢合格

- ・7年6月～9年卒業
- ・評定 40/45
- ・英検 1級 (7年次)
- ・中1段階で英検1級を保有。在学中は日本語の補強を中心に行った。試験形式に不慣れで、試験中の時間の使い方などのトレーニングを模試や過去問演習を通じて行った。

まとめ

それぞれの子どもの特性を捉えた進路指導が必要。本人の努力と謙虚に臨む姿勢も成長の伸びに影響。